

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：返礼品数				指標の求め方：寄附者への返礼品の数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：寄附者数				指標の求め方：1年間の寄附者数									
				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 250	260	270		280	290	300		300	300	300	300			
		実績値	250	313	302		396										
	成果指標 1 (単位/人)	計画値	9,500	10,000	11,000		12,000	13,000	14,000		14,000	14,000	14,000	14,000			
		実績値	12,522	44,571	42,990		51,472										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている											
		総合評価				極めて良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 12社のふるさと納税受付サイトに返礼品を掲載し、着実に寄附者数を増やすことができました。寄附者件数の増加に伴い、業務体制の強化を図るため、ふるさと応援寄附金事業の業務の一部を委託し、事務の効率化を図るとともに、民間事業者のノウハウを活かしなが	自己分析： 15社のふるさと納税受付サイトに返礼品を掲載するとともに、新規返礼品提供事業者の参入による新規返礼品の拡充により、大きく寄附者数を増やすことができ、成果指標である10,000人を達成することができました。今後さらなる寄附者件数の増加に向け、返礼品提供事業者や新規返礼品の拡充などにより、寄附者増加に繋げていき	自己分析： 18社のふるさと納税受付サイトに返礼品を掲載するとともに、新規返礼品提供事業者の参入による新規返礼品の拡充により、大きく寄附者数を増やすことができ、成果指標である10,000人を達成することができました。今後さらなる寄附者件数の増加に向け、返礼品提供事業者や新規返礼品の拡充などにより、寄附者増加に繋げていき	判断理由： 活動指標を達成するとともに、業務委託によるノウハウの活用、新規返礼品事業者の拡充により、成果指標を大きく上回ることができた。	自己分析： ふるさと納税の4大サイトを中心に新規返礼品提供事業者の参入による新規返礼品の拡充により、大きく寄附者数を増やすことができ、成果指標である12,000人を達成することができました。今後も安定的な財源の確保ができるよう、さらなる寄附者件数の増加に向け、返礼品提供事業者や新規返礼品の拡充などにより、寄附者増加に繋げていきたい。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					拡大											
方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： ふるさと納税の寄附者数を増やすために、新規返礼品提供事業者や返礼品拡充に重点を置いて事業を進めており、令和4年度では、前年度対比で3.5倍強の寄附件数を伸ばすことができました。今後さらに、寄附者数を増やすため、砂川市の魅力や寄附のメリットを広く知ってもらうため、WEB広告の活用などのPR活動を強化していくことから「拡大」とした。				R8：				R10：							

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：公共建築物の維持保全事業費				指標の求め方：公共建築物の維持保全に係る事業額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：公共建築物の維持保全実施状況				指標の求め方：計画している維持保全事業実施割合									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 4,114,000	33,716,000	71,123,000		64,255,000	73,854,000	14,850,000							
		実績値	3,861,000	85,550,520	163,724,550		65,673,000									
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100							
		実績値	100	100	100		100									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 計画通りの更新 がなされている。	自己分析： 当初予定していた更新年度に変更が生じているが、計画通りの更新がなされている。 【計画年度繰下】 ・北勤労者福祉会館暖房器→R5年度以降 ・保育所LED改修（空知太）→R5年度以降 ・ふれあいセンター暖房器・床→R5年度以降 ・旧オアシスゴルフ場管理棟2解体→R5年度 【計画年度繰上】 ・ふれあいセンター屋上防水改修→R6年度より変更 ・分庁舎暖房器→R5年度より変更	自己分析： 前年度の計画年度繰下分の事業実施（ふれあいセンター空調設備）もあり、計画通りの更新がなされている。	判断理由： 利用予定のないものについては解体をすすめ、計画掲載事業については後年次になったとしても着実に実施されていることから、計画はほぼ達成されていると判断した。事業費実績が予定より膨らんでいる傾向がある。	自己分析： 計画通りの更新がなされている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 公共施設等が耐用年数を迎え、多額の建替・改修費用が見込まれており、今後も長寿命化や活用する施設の見極め、適正配置を図るとともに、跡地活用などについても考慮した上で施設の方向性を決める必要がある。 また、小中学校の統廃合により大規模な未利用地が生じるため、跡地活用について早急に検討を進めていく必要がある。				R8：				R10：					

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	公用車計画更新事業				事業期間	— 年度 ～ — 年度							
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	6-5-2	他に関連する基本事業	— —	— —	— —	— —	所管課係	総務課契約管財係
目的 (何のために実施するのか)	公用車を計画的に更新し財政負担の平準化を図るため。							手段 (どのような方法で実現するのか)	更新の基本ルールは、走行距離15万kmまたは15年を経過とする。 ※更新基準に到達しても、車輛の状態が良ければ更新時期を見合わせるなど、状況に応じた更新とする。				
対象 (誰・何を対象としているのか)	公用車							成果 (どのような効果が得られるのか)	計画的に車両更新することで、経年劣化による故障等により業務に支障を来たさず、また、財政負担も平準化される。				
事業開始時の状況・これまでの経緯													

【DO】

実績

単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	8,073,000	5,300,000	1,215,000	14,588,000	5,815,000	4,610,000	5,600,000	16,025,000	2,610,000	4,000,000	2,600,000	2,600,000	11,810,000	42,423,000
		予算計上額	8,147,542	3,154,710	1,827,440	13,129,692	5,815,000	5,601,000		11,416,000					0	24,545,692
		実績額	5,651,506	7,104,615	1,312,584	14,068,705	4,701,851			4,701,851					0	18,770,556
事業費合計	計画額	8,073,000	5,300,000	1,215,000	14,588,000	5,815,000	4,610,000	5,600,000	16,025,000	2,610,000	4,000,000	2,600,000	2,600,000	11,810,000	42,423,000	
	予算計上額	8,147,542	3,154,710	1,827,440	13,129,692	5,815,000	5,601,000	0	11,416,000	0	0	0	0	0	24,545,692	
	実績額	5,651,506	7,104,615	1,312,584	14,068,705	4,701,851	0	0	4,701,851	0	0	0	0	0	18,770,556	
事業費予算の内容		小型貨物1台 ホイールローダ1台 購入費 5,587,496 保険料 50,810 公課費 13,200	普通乗用車（SUV）1台 購入費 3,038,600 保険料 66,910 公課費 49,200	軽自動車 1台 購入費 1,770,000 保険料 51,840 公課費 5,600		軽自動車 1台 コンパクトSUV 1台 購入費 5,681,000 保険料 117,000 公課費 17,000	軽自動車 1台 コンパクトSUV 1台 購入費 5,457,000 保険料 122,000 公課費 22,000									
前年度予算との比較 （増減理由）		購入予定台数の増	購入予定台数の減	購入車両の予定価格が高くなったため		購入予定台数の増	購入車両の予定価格が低くなったため									
実績との比較 （増減理由）		入札減	購入台数の増	入札減		入札減										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：—			指標の求め方：活動指標の設定が困難であることから設定しない										
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：—			指標の求め方：成果指標の設定が困難であることから設定しない										
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 （3年度）	第 2 年次 （4年度）	第 3 年次 （5年度）	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 （6年度）	第 5 年次 （7年度）	第 6 年次 （8年度）	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 （9年度）	第 8 年次 （10年度）	第 9 年次 （11年度）	第10年次 （12年度）	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指 標	活動指標 1 （単位/ ）	計画値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		成果指標 1 （単位/ ）	計画値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	評 価 内 容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）					—									
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）					—									
		事業の効率性 （事業費に対する成果）					変わらない									
		総合評価					良好である									
			自己分析： 適正な財産管理 を行うため計画的な更新がなされている。	自己分析： 市長車の損傷により、更新年度が早まったが、適正な財産管理を行うため計画的な更新がなされている。	自己分析： 適正な財産管理を行うため計画的な更新がなされている。	判断理由： 計画的な更新を行い、公用車に係る費用負担の平準化が図られている。	自己分析： 適正な財産管理を行うため計画的な更新がなされている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析													
	今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： 年数経過により車両の設備故障が頻繁に生じる車両も出てきており、短期間でも使用困難となる事案が出てきていることから、経過年数にとらわれず、車両の状態を考慮しながら計画的に車両を更新することが必要である。また、市の公用車として環境配慮車の配置についても検討していく。				R8：				R10：						